

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和3年8月2日（月）
- 2 確認箇所
メガフロート周辺
- 3 確認項目
メガフロート津波等リスク低減対策工事の進捗状況

4 確認結果の概要

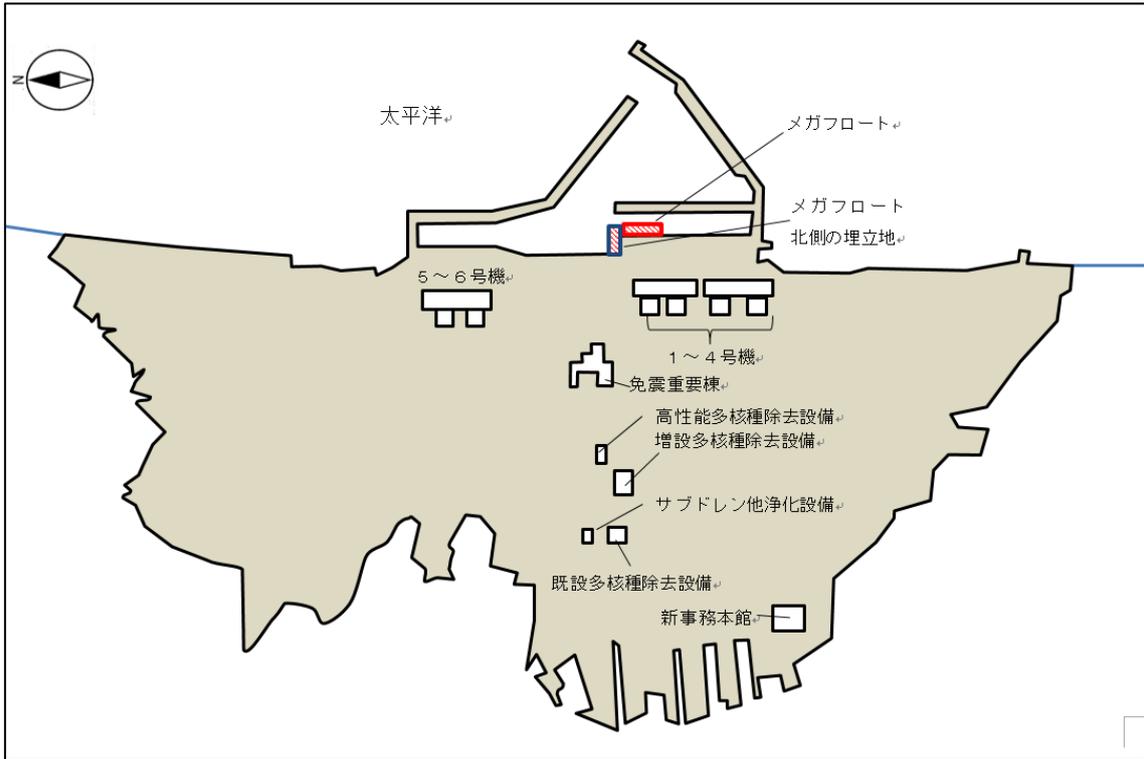
東北地方太平洋沖地震の津波により浸水した5・6号機タービン建屋の滞留水を一時貯留するために活用されたメガフロート^{※1}については、津波等の発生時には漂流物となり、周辺設備を損傷させるリスクがあることから、港湾内に着底させ、護岸及び物揚場として活用する工事が平成30年11月から進められている。

昨年8月に着底が完了し、前回の現場確認（[令和2年10月5日](#)）ではメガフロートと護岸の間の埋立作業が行われていた。今回、その後の状況を確認した。（図1）

- ・メガフロートと護岸の間の埋立作業は完了していた。（写真1）
- ・メガフロート上部ではアッシュクリート^{※2}による盛土工事が行われていた。（写真2）
- ・メガフロート北側の港湾は埋め立てられ、一部に新たに護岸が設置されていた。また、引き続き設置される護岸のコンクリート打設に向けて型枠設置準備工事が行われていた。（写真3）
- ・東京電力によれば、盛土工事及び護岸整備工事を実施し、今年度中に護岸等としての活用を開始予定としている。

※1 全長約136m、全幅約46m、全高約3m、貯水量約1万m³の鋼鉄製の大型浮体式構造物。他県で海釣り公園として使用していたものを平成23年5月に発電所港湾内に移動し、平成24年11月まで使用した。

※2 石炭火力発電所から発生する石炭灰とセメントを混合した人工地盤材料。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
前回の埋立状況
(令和2年10月5日撮影)



(写真1-2)
今回の状況
(令和3年8月2日撮影)



(写真2)
メガフロート上部の盛土工事の状況



(写真3)
メガフロート北側の港湾の埋立状況
及び型枠設置準備工事の状況

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。